

デリカテッセン (1991)

DELICATESSEN

メディア 映画

ジャンル S F コメディ ドラマ

製作国 フランス

色彩 Color

時間 100分

初公開日 1991/12/21

公開情報 フジテレビ=ヘラルド・エース提供／ヘラルド・エース=ヘラルド

映倫 PG12

リバイバル 2025/01/10 [Diggin'] (4 Kレストア版)

【キャッチコピー】

肉踊る世紀末の巴里へようこそ。

【解説】

摩訶不思議な異次元空間を見事に創りあげ、“イメージの鍊金術師”“フランスのテリー・ギリアム”との異名をとったジャン=ピエール・ジュネ&マルク・キャロ監督による長編デビュー作。核戦争終了15年後のパリ郊外に、ポツンと残る精肉店兼アパート“デリカテッセン”。ここに住人は、いつも不気味な笑いを浮かべる親父を始め、肉食主義の曲者揃い。草も木も生えず、食べ物のないはずの近未来の精肉店で売られている肉とは……？ この映画の見所は、何と言ってもCF出身のジュネとキャロが描く映像の面白さ。水道管やダクトの中を縦横無尽に入ってゆくキャメラ、大胆なまでのアングル、セックスをしているベットの軋むバネの音から、布団を叩く音などを畳みかけるように演出した緊迫感。そして近未来という設定ながら、1950年代風のクラシックな美術に、隅々まで雰囲気ピッタリのキャストとがあいまって、独特のクレイジーな映像世界を構築している。また、肉食主義対菜食主義という奇想天外な発想に加えて“赤頭巾ちゃん”や“白雪姫と7人の小人”といった童話のイメージをダブらせて、S Fともファンタジーとも言える独特の映像を創り上げている。これらこの監督の持つ、独特的の映像感覚はこの後に製作された「ロスト・チルドレン」でも見事なまでに受け継がれており、このテの、一種“毒”のあるハイテンポなギャグ、異様な映像世界が好きな御仁には間違いないお勧めの1本！である。

【クレジット】

監督	ジャン=ピエール・ジュネ マルク・キャロ	Jean-Pierre Jeunet Marc Caro
製作	クローディー・オサール	Claudie Ossard
脚本	ジャン=ピエール・ジュネ マルク・キャロ ジル・アドリアン	Jean-Pierre Jeunet Marc Caro Gilles Adrien
撮影	ダリウス・コンジ	Darius Khondji
美術	ミリアン・クレカ・クリアコヴィッチ	Miljen Kreka Kljakovic
音楽	カルロス・ダレッシオ	Carlos D'Alessio
出演	ドミニク・ピノン マリー=ロール・ドゥニヤ ジャン=クロード・ドレフュス カリン・ヴィアール	Dominique Pinon Jean-Claude Dreyfus Karin Viard

ティッキー・オルガド
アン=マリー・ピサニ
エディス・カー
チック・オルテガ

Ticky Holgado
Chick Ortega